

図書館だより

No.24

2023（令和5年）12月15日

石岡商業高校 図書委員会



第68回学校読書調査（2023年）

第68回調査の結果では、2023年5月、1か月間の平均読書冊数は、小学生は12.6冊、中学生は5.5冊、高校生は1.9冊、不読者（5月、1か月間に読んだ本が0冊の児童生徒）の割合は、小学生は7.0%、中学生は13.1%、高校生は43.5%となっています。高校生が本を読まない理由は、「ほかの活動などで時間がなかったから」がもっとも多く、64.5%にのぼった。このほか、「ほかにしたいことがあったから」47.3%、「普段から本を読まないから」32.8%などの回答も多かった。また、別の調査では、1ヶ月の読書時間は、高1が10.3時間、高2は9.0時間、高3は6.5時間で学年が上がるにつれて読書にさける時間が少なくなっているようです。皆さんはどうでしょうか？

新着本の中からのお薦め本

☆「みんなと違う」自分を大切にする方法（本田秀夫）

「先生の話に集中できない」「友達と話が合わない」「自分のペースを大事にしたい」自分の特性に悩む人の特徴をおさえ、対処法をがまとめてあります。文章だけではなくマンガと図を組み合わせて解説しているので、気が向いたところから気軽に読むことができます。



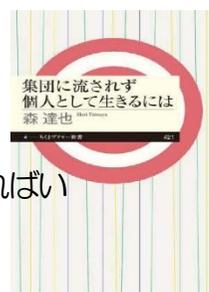
☆この夏の星を見る（辻村深月）

亜紗は茨城県立砂浦第三高校の二年生。顧問の綿引先生のもと、天文部で活動している。コロナ禍で部活動が次々と制限され、楽しみにしていた合宿も中止になる。円華（まどか）は長崎県五島列島の旅館の娘。高校三年生で、吹奏楽部。ある日、クラスメイトに天文部に誘われる——。コロナ禍による休校や緊急事態宣言、これまで誰も経験したことのない事態の中で大人たち以上に複雑な思いを抱える中高生たち。しかしコロナ禍ならではの出会いもあった。
【土浦三高を取材し作者の講演会も開かれた】



☆集団に流されず個人として生きるには（森達也）

過剰に叩かれる宗教団体、危機を煽るメディア、ネットの炎上……集団は強い絆と同調圧力を生み、時に暴走する。そこで流されないためにはどうすればいいのか。



☆植物少女（朝比奈 秋）

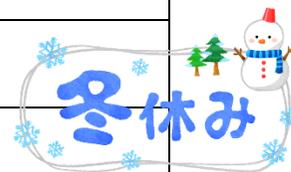
美桜が生まれた時からずっと母は植物状態でベッドに寝たきりだった。小学生の頃も大人になっても母に会いに病室へ行く。動いている母の姿は想像ができなかった。美桜の成長を通して、親子の関係性も変化していき——「生きるとは何か」を問う、真摯な母娘の物語。



着本案内 図書館入口より正面書架に新着図書コーナーがあります

書名	著者名
集団に流されず個人として生きるには	森達也
勉強が面白くなる瞬間	パク・ソンヒョク
毒をもって僕らは	冬野岬
伝説の校長講話—渋幕・渋渋は何を大切にしているのか	田村哲夫
カティンの森のヤニナ	小林文乃
荒地の家族	佐藤厚志
成瀬は天下を取りに行く	宮島未奈
君といた日の続き	辻堂ゆめ
近代日本の「知」を考える	宇野重規
いつか君が運命の人	宇山佳佑
この夏の星を見る	辻村深月
身近な雑草たちの奇跡	森昭彦
しろがねの葉	千早茜
境界のポラリス	中島空
先生、どうか皆の前でほめないで下さい—いらい子症候群の若者たち	金間大介

再読だけが創造的な読書術である	永田希
人は違和感が9割	松尾貴史
AI時代に生きる数学力の鍛え方—思考力を高める学びとは	芳沢光雄
三省堂国語辞典から消えたことば辞典	見坊行徳
日本語が消滅する	山口仲美
言語の本質—ことばはどう生まれ、進化したか	今井 むつみ/秋田 喜美
あかあかや明恵	梓澤 要
ヒロイン	桜木紫乃
アリアドネスの声	井上真偽
「私」は脳ではない	マルクス・ガブリエル
遠火	今野敏
図書館のお夜食	原田 ひ香
女ことばってなんなのかしら	平野獅子
ハンチバック	市川 沙央
極楽征夷大將軍	垣根 涼介
忘れ得ぬ言葉 - 私が出会った37人	鎌田慧
わたしたちに翼はいらない	寺地はるな
世界でいちばんやさしい教養の教科書 人文・社会の教養	児玉克順
世界でいちばんやさしい教養の教科書 自然科学の教養	児玉克順
いつか君に出会ってほしい本	田村文



「自分の意見」ってどうつくるの?	平山美希
スクランブル交差点	佐藤まどか
「みんなと違う」自分を大切にする方法	本田秀夫
踏切の幽霊	高野和明
茨城の外来種データブック 2023年版	茨城県生物多様性センター
税金で買った本	ずいの
植物少女	朝比奈 秋
レッドクローバー	まさき としか
作りたい女と食べたい女 1 1話~9話	ゆざき さかおみ
作りたい女と食べたい女 2 10話~18話	ゆざき さかおみ
作りたい女と食べたい女 3 19話~27話	ゆざき さかおみ
作りたい女と食べたい女 4 28話~37話	ゆざき さかおみ
近藤誠一 全集 III	近藤 誠一

さ・え・ら 街の本屋さんが消えている !!

書店の減少に歯止めがからず「過去最悪」に。全国の自治体の26.2%が「書店ゼロ」1990年代末に2万3000店ほど存在した全国の書店が、2022年現在、正確な数字は分からないものの、既に1万店以下となっているという見方が強いらしい。調査によると、書店がないのは全国1741市区町村のうち456市町村。読書離れは、情報の入手経路が紙媒体からインターネット媒体に置き換わったことや、アマゾンなどのネット書店や電子書籍など。時代の変化とはいえ淋しい気がするのは私だけだろうか。

令和5年度第69回青少年読書感想文コンクール茨城県予選において下記の3名の生徒さんが入賞しました。おめでとうございます。

- 藤井 明音さん (1-3) 「ノルウェーの森」
- 清水 心愛さん (2-3) 「君たちはどう生きるか」
- 網代 百々花さん (3-2) 「告白」

次回も、多数の応募を待っています。 **冬季休業中の閉館日**

2023年12月29~31日 2024年 1月 1~ 3日

